

平成 31 年 2 月 14 日

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名：清風

報告者：赤木忠徳

実施場所：大分県臼杵市

若者世代が住みたい田舎ランキング 1 位、しかもシニア世代も 1 位なぜなのか？モニターツアーに同行して学ぶ

実施日：平成 31 年 2 月 9 日

■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状など）

2019 年 1 月 4 日発売の「田舎くらしの本」（宝島社）2 月号で「住みたい田舎ランキング」（人口 10 万人未満の小さなまち部門）で若者世代が住みたい田舎部門で 第 1 位 シニア世代が住みたい田舎部門で 第 1 位 自然の恵み部門 第 2 位 総合部門で 第 3 位に輝いた。視察を申し入れたが、移住希望者モニターツアー準備中ということで視察は受入出来ないとのことであったが、連休中 3 日間を利用してのモニターツアーの初日に同行をお願いしたところ快く受け入れて頂き、（インターネットで検索したが皆無）しかもホテル、夕食の紹介までお世話になった。秘書・総合政策課 協働まちづくりグループの課長代理、議会事務局副本主幹には 18 時まで熱心に臼杵の素晴らしさを紹介して頂いた。

■参考とすべき事項

初日は、「空き店舗ツアー」市内のホテルでの懇親会、2 日目は「自然農法農家訪問・農家民泊」。12 時 40 分からオリエンテーションには、神奈川県からの夫婦、東京から夫婦・1 歳男児、お隣の大分市から夫婦、東京から女性、大分県から女性、東京から事務職の女性、大分県から自然農法に興味をおもちの女性、福岡県から女性の 7 組 11 名で臼杵市の紹介が始まりました。市役所協働まちづくりグループから移住支援の取り組み、移住者からのこれまでの体験を基にした臼杵の特色の紹介が 4 名続いた。嘘偽りのない本音の紹介はツアー参加者の心を打ったに違いない。その後、㈱まちづくり臼杵に移動して、当日のみの参加者・案内者を含めて、30 人以上のツアーとなり、雨の中空き店舗の紹介、千葉から移住者パスタハウスの女性からも経験を熱心に聞き入っていた。先月開店した整体・カフェ店の女性からも時間オーバーになるほど熱のこもった時間であった。空き家の詳しい資料には、構造、面積、設備、販売価格、家賃も明記されていて参加者には、すぐにも具体的な交渉が出来るようになっていた。ツアー途中からかわの巧議員も同行され、ツアー終了後副議長からもご挨拶を頂いた。職員、議員さんの熱心さは半端ないほど熱かった。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

移住しようとされている方々の個別のプログラムが整備されている。創業支援事業、空き店舗活用促進事業、就農研修制度、漁業担い手育成交付金、移住奨励金、引っ越し費用補助金、仲介手数料補助金、家賃補助金、住宅取得補助金、空き家改修補助金、地域おこし協力隊の採用など盛り沢山である。子育て世代に福祉、医療の充実、ジャングルジム等大型公園など、ここで子育てをしたいと若夫婦が早速空き家バンクからのリストを検索していた。地域おこし協力隊に応募されている若い女性は、有機農業をしたくてツアーに参加したけど、移住者からの説明は胸を打ちますと話されていた。パンフレットも具体的、移住準備から順次理解できるよう整備されていた。庄原市も見習うところが大きいにある。移住補助金を利用した移住者は平成 29 年度 112 世帯 266 人は驚異的である。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

平成 31 年 2 月 14 日

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名：清風

報告者：赤木忠徳

実施場所：大分県豊後高田市

年間 40 万人が訪れる昭和の町のマネジメントを学ぶ

実施日：平成 31 年 2 月 10 日

■ 目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状など）

昭和 30 年代は大阪との貿易、宇佐参宮鉄道の終点で 300 店舗が栄えていたが、宇佐参宮鉄道の廃止、大型店舗の進出、マイカーの普及によって商店街も 4 割がシャッター通りとなつた。商店街活性化構想も構想自体が絵に描いた餅、お蔵入りになつたが、誇るべき町の個性をこの町にしかない町づくりの旗じるしに、商店街が元気だった最後の時代、昭和 30 年代「昭和」をテーマが観光の素材として、どれだけ魅力があるか検証したところ、7 割が昭和の建物であり「4 つのキーワード」昭和の店再生（アルミ製の建具から木製に復元）、昭和の歴史再生（一店一宝）、昭和の商品再生（一店一品）、昭和の商人再生（客と店主が会話する）をコンセプトとして再生行動に移した。当初数店舗の参加であったが、平成 18 年米倉庫を利用し始めてから観光バスが 1 日 50 台 2 年目で 20 万人が訪問した。犬と猫しか歩かない悲劇の商店街が「昭和の町」づくりで 91 億円の経済普及効果の奇跡の復活劇であった。

■ 参考とすべき事項

町を案内していただくと、4 つのキーワードは確実に実施されていた。最初に訪れたお茶屋さんでは、女将から煎茶をいただきながら、茶箱（一店一宝）の説明、当時宇治から貨車 1 台を借り切つて 1 年分のお茶を仕入れていた、お茶は紙袋（一店一品）に入れて販売していたものを復活していました。唐箕、嫁入り籠、手動肉スライサーなど、庄原にも多く残つていそうな品である。今ならある地域を中心に復活再生するには、可能であろう。ボンネットバスは福山の下駄、自動車博物館からの提供で土曜日曜祭日に無料運行されていて、多くの皆さんがあなたの名物ガイドさんの流暢な案内に耳を傾けていました。道もバスが通行すると離合が出来ない程の道幅である。食堂は学校給食をアルミの食器で出す店や、その当時から価格を据え置いている店など話題には欠かせない。

■ 提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

口和郷土資料館は、昭和の町に決して負けていないが、一施設としてではなく商店街としての広がりがあれば、多くの人を魅了する施設、商店街に再生するであろう。今なら間に合う！ 豊後高田市は住みたい田舎ランキング総合 1 位の町でもある。医療費高校まで無料、給食も無料、無料塾を土曜日に実施、学びの 21 世紀塾は市役所の職員が 50 % ボランティアでおこなつておらず、大分県内でトップクラスの教育水準。

豊後高田市観光まちづくり株式会社の小池さんは、駐車場で走り廻って誘導されていて、最後に講習を受けた時に豊後高田市観光課・観光振興推進室の主査であつて、株式会社に出向されていました。活き活きと活躍されている市職員を見て、町が輝いていると感じた。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

平成 31 年 2 月 15 日

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：清風

報告者：竹内光義

大分県臼杵市の定住・移住支援の取り組み

実施日：平成 31 年 02 月 09 日

■目的・課題・問題自校（調査・研修に先立っての思いや本市の現状など）

・臼杵市の状況は、面積が 291 km²で人口は 37,018 人・高齢化率は 38%で 20 年後には人口が 30,000 人を割る推計が出ている。今回は、（サーラ・デ・うすき）臼杵のまちなかをめぐる空き店舗ツアーに参加した。期間中は市役所職員、地域おこし協力隊、定住支援員の皆さんと一緒に行動した。実際に移住した方のお宅を訪問し移住してみての感想や、空き家バンク制度の利用状況を聞くことができた。又、臼杵市の城下町を中心とするまちなかは、歴史的な雰囲気の残る町並みが広がると同時に商店街や店舗が集まる中心商業地域であり、空き店舗を活用した、ご商売や創作等の交流活動を希望される方、興味をお持ちの方等の対象に見学ツアーを開催されていた。

■参考とすべき事項

・移住支援の特色ある取り組みとして、平成 22 年に臼杵市土づくりセンターを開設し約 6 ケ月間の工程を経て完熟堆肥を完成させた。有機の里うすきとして市長さんが認証し学校給食の野菜を地元の生産者が供給している。又、日々の安心できる暮らしのために人のつながり、支え合い、世代を超えて地域コミュニティ再生に取り組んでいる。平成 28 年 1 月から子ども・子育て総合支援センターの設置をした。妊娠期から 18 歳までの子育てに関する相談のワンストップ体制と、行政手続きなど子育て環境の充実し、平成 27 年度から子育て世代を対象にしたアンケート（ニーズ調査）で要望が多かった大型公園の整備を実現した。当日は市役所協働まちづくりグループから移住者支援の取り組み、移住者からこれまでの体験を基にした臼杵の特色ある紹介があり、東京、福岡、などの県外のツアー参加者の感動を受けていた。ツアー終了後には副議長さんからもご挨拶を頂きました。議会事務局の職員さんにもお世話になりました。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきかなど）

・臼杵市は、都市部での移住相談会や市内の施設・店舗等で（臼杵の住みやすさ）PR 移住・定住促進ポスターなどを通して、臼杵の魅力を発信して（うすき暮らし）興味を持ち、行ってみたい、暮らしてみたいという人を増やす為の取り組みをして移住補助金を利用した移住者は平成 29 年度で 112 世帯 266 人の実績効果を出している。臼杵市の移住・定住促進施策事業の今後の課題は、自治会の負担金や行事等の把握、移住者受け入れ事業の連携、移住後のトラブル回避・若者・子育て世代の定住では、都市部や隣接市に流出する若者・子育て世代の定住促進補助金等の充実・周知徹底などの多くの課題もある。

※調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

平成 31 年 2 月 15 日

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：清風

報告者：竹内光義

大分県豊後高田市の昭和の町マネジメントを学ぶ 実施日：平成 31 年 02 月 10 日

■目的・課題・問題自校（調査・研修に先立っての思いや本市の現状など）

- ・ 豊後高田市は、面積は 206.6 km²・人口が 22,861 人ですが、ここ数年は転入が転出を上回る社会増が続いている。某雑誌で住みたい田舎ベストランキング 7 年連続ベスト 3 位（2019 年総合部門第 1 位）で台風や豪雨災害でも被害が少なく安心・安全な街として又、さまざまな行き届いた支援が移住者だけでなく、市民も住みやすい街として全国から注目されている。しかし、豊後高田市街地は犬と猫しか歩かない悲劇の商店街が、平成 18 年に米倉庫を利用し始めてから観光バスツアーで一日 50 台・二年目では、20 万人が訪問した。（昭和の町）づくりで、91 億円の経済普及効果の奇跡が起り見事な復活でした。

■参考とすべき事項

- ・ 旧豊後高田市の商店街は、地域商業の核として栄えていたが近年の大型店の進出や過疎化による後継者不足、さらには加速する時代の流れに乗り切れず、いずれの商店街も衰退していった中で、平成 4 年から商店街活性化構想で長い熱い議論が始まり、誇るべき町の個性をこの町にしかない町づくりの旗じるしに、昭和 30 年代の（昭和）をテーマが観光の素材として、どれだけ魅力があるか検証したところ 7 割りが昭和の建物であり（4 つのキーワード）昭和の店再生（アルミ製の建具から木製に復元）・昭和の歴史再生（一店一宝）・昭和の商品再生（一店一品）・昭和の商人再生（客と店主が会話する）をコンセプトとして、再生行動に移行した。（昭和ロマン蔵）の建物は、大分県きっての大金持ちといわれた（野村財閥）が昭和 10 年前後に米蔵として建てた旧高田農業倉庫でした。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきかなど）

- ・ 豊後高田市は、将来の人口構想を 30,000 人と設定されている中で、定住対策として定住者向け土地・無償提供分譲地・教育のまちづくりとして、無料塾（21 世紀塾）を土曜日に実施、学びの塾は市役所の職員が 50% ボランティア活動している。又、小中高まで医療費無料、給食費も無料などこれまで（人口増対策）や（子育て支援の充実）に取り組んでいろいろな施策が成果として着実に成果が表れている。今回の研修は市役所職員が活き活きと活躍している姿を見て感動した。本市の中でもいろいろな施設があり改めて、全国から多くの人が魅力を感じる施設に再生することが重要である。

※調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

平成 31 年 2 月 15 日

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： 清風

報告者： 門脇俊照

実施場所：大分県豊後高田市	実施日：平成 31 年 2 月 10 日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）	
豊後高田市には 10 年前に「昭和の町」づくりの視察に行き、教育の町でも視察に行き、今回で公式には 3 度目の視察です。	
昭和 30 年～平成 13 年は犬と猫しか歩かない商店街と地元の人も言っていた程でした。、原因是鉄道の廃止、大型店の進出、マイカーの普及で 300 店舗もあった店が、4 割がシャッター通りになり商店街活性化構想も前には進まずとん挫。	
考えていたのが、商店街が元気で活気にあふれていた昭和 30 年の町を復活させ観光に生かすことでした。	
■参考とすべき事項	
当時、大分県では 1980 年に平松知事の提唱で一村一品運動が広がり、豊後高田市でも昭和の歴史再生で一店一宝、昭和の商品再生で一店一品、昭和の商人再生（客と店主の会話）アルミの看板を木製にするなどとことん昭和を意識しての商店街つくりが始動。	
議論の始まりが平成 4 年から始まり 10 年後の観光客が 8 万人、この取り組みが雑誌、テレビに紹介され現在では 40 万人と多くの観光客が訪れるようになり奇跡の復活が実現していました。	
10 年前に行った時より、移住者による若者向きのお店が多くなっていました。日曜日とあって観光客の多いこと、どこの店に入っても店主が必ず話しかけてくれ、地元の自慢話をしながら購買意欲をくすぐる上手さに納得しました。	
昭和の町づくりは商店街の復活だけでなく移住・定住に大きな影響を生み、年間 300 名以上が定住し、市では現人口 22,800 人を将来 3 万人にするべき構想で動いているとのこと。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）	
以前にも提言したことがあります、庄原市が唯一可能な町づくりは豊後高田市の「昭和の町」をお手本にすること、今なら口和資料館や学校、古民家に眠っている昭和の物を探すと多くのお宝があると思います。	
本市のどこかの地域をモデル選定し実行してみる価値はあると思います。 二番煎じでも真似をして庄原版昭和の町づくりを考えてみませんか。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

平成 31 年 2 月 15 日

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名：清風

報告者：門脇俊照

実施場所：大分県臼杵市

実施日：平成 31 年 2 月 9 日

■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状など）

宝島社発行の「田舎暮らしの本」ランキングで若者世代が住みたい田舎部門で第 1 位、シニア世代が住みたい田舎部門 第 1 位、自然の恵み部門 第 2 位、総合部門で第 3 位に輝いた臼杵市に学びました。

何故、ここまで人気があるのか知りたくて年 4 回開催されるモニターツアーに同行させて頂きました。モニターは年 4 回 2 泊 3 日で参加費無料、うすきツーリズム活性協議会が行うもので今回は市職員、議会事務局員、まちづくり定住支援員の迎える側と移住希望者の現場の声を同時に聞かれた視察でした。

■参考とすべき事項

午後 12 時 40 分から始まったオリエンテーションで参加者が自己紹介、東京から夫婦と 1 歳児、神奈川県から夫婦、大分市の夫婦、東京・大分県から女性、7 組 11 名が参加。

市役所協同まちづくりグループから移住支援の取り組み、移住された人から住んでみて良かったこと疑問に思ったことなど具体的な体験談が話され参加者は興味深く生の声に注視していました。中でも広島市から移住した二宮さんは定年を機に軽い気持ちでツアーに参加され臼杵市に惚れて移住、町内会の役員、各種ボランティア活動、農家民宿など幅広く活動され田舎暮らしを皆さんに伝授。

職員が話すより移住された人を前面に会を進める内容にも斬新さを感じました。

その後、まち中に移動し、移住者が経営するカフェやパスタ店など訪問、空き家訪問では資料に面積、構造、設備、販売価格、家賃など詳しく明記されていて参加者も具体的な質問が出来る配慮がなされていました。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきかなど）

移住者に何が必要か良く研究されておりプログラムも総合支援事業、空き店舗活用促進事業、就農研修制度、漁業担い手育成交付金、移住奨励金、引っ越し費用補助金、家賃補助金、子育て世代の福祉、医療の充実、地域おこし協力隊の採用などのパンフレットが充実しています。

参加者もパンフレットを開き納得いくまで質問をされていました。

なかなか出来ないことですが、広瀬課長、後藤議会事務局員、かわの議員、ツアー終了後、副議長の長田さんがご挨拶に来られ謝辞を述べられたことに頭が下がりました。

人口 39,367 人 移住者数 H27 年 172 人 H28 年 203 人 H29 年 266 人

本市に移住された人の活動などを紹介したり、本市の PR を行っていただく取り組みを作成するなど移住・定住を積極的に進めて頂きたい。